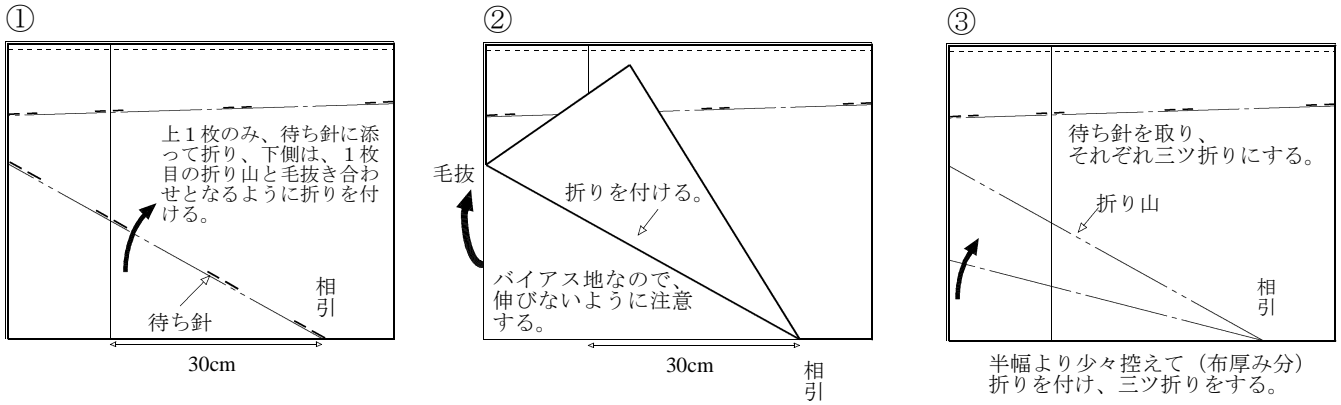




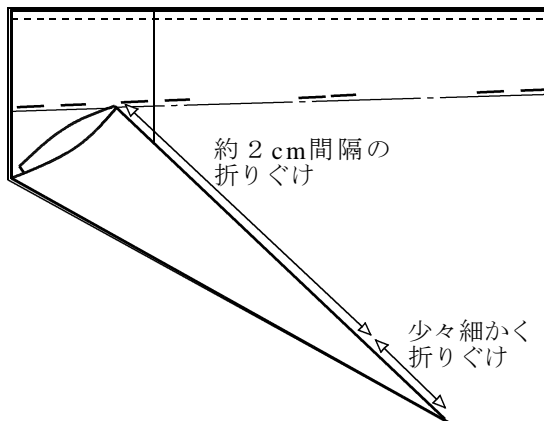
### 3. 投げ



### 4. ひだ折り

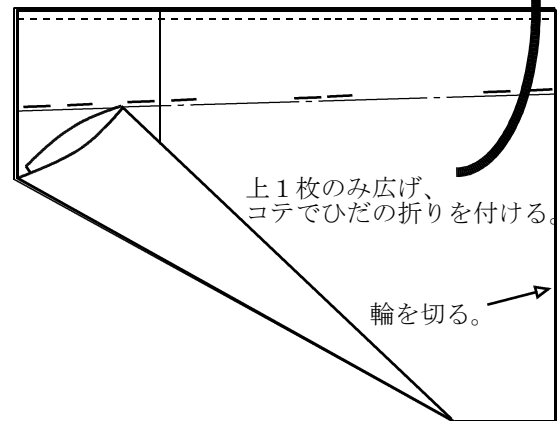
#### ①投げのくけ

一枚ずつ後に布へくけ付ける。

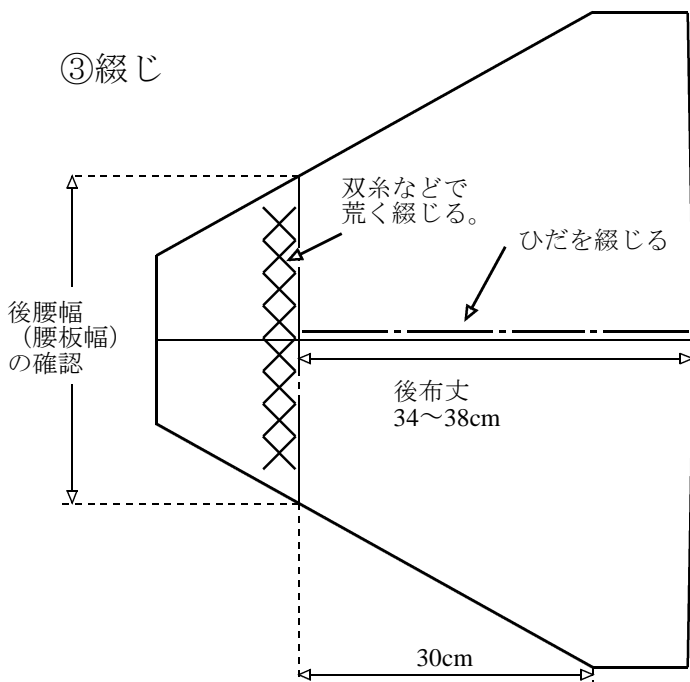


#### ②ひだ折り

裾の輪を切り、上1枚のみ待ち針に添ってひだ折りの折りを付ける。



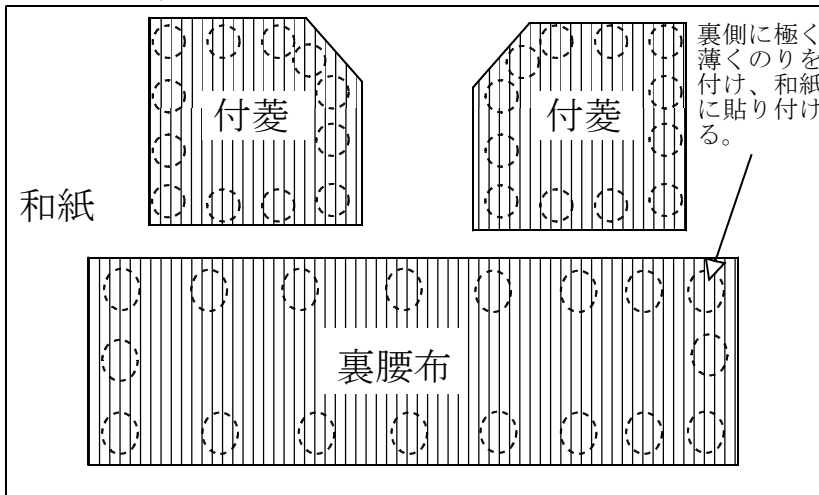
#### ③綴じ



◎後布丈 (34~38cm) と後腰幅 (腰板幅) などの寸法を確認する。

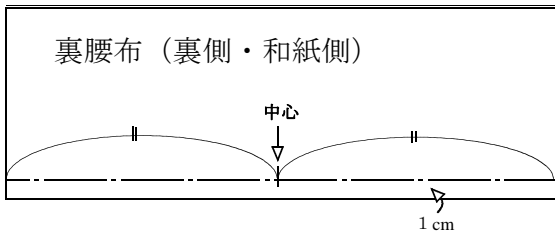
後腰幅 (腰板が付くところ) の標付け、縫い代の綴じ、ひだ山の綴じを行う。

## 5. 腰布、付菱



①付菱、裏腰布の裏側に、極く薄く布端にのりを付け、和紙に貼り付ける。縞が曲がらないように注意すること。

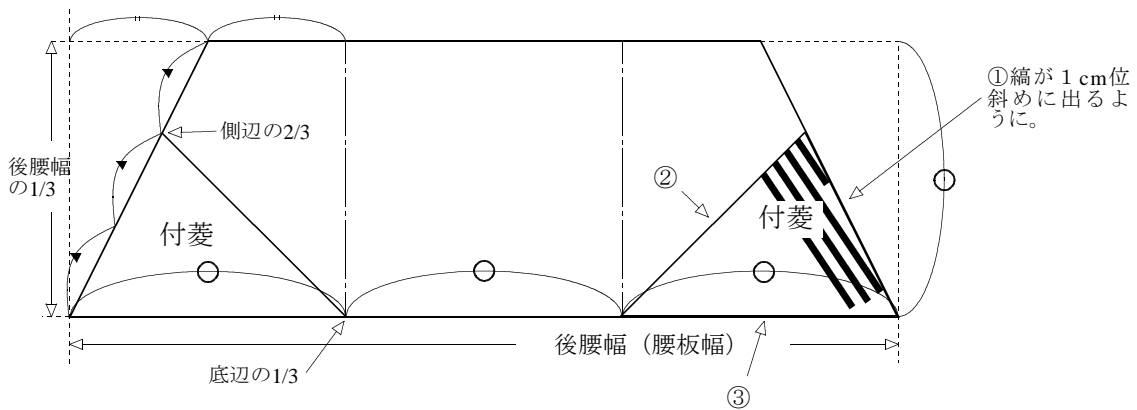
②布地と同じ大きさで和紙を切る。



③左図のように裏腰布の縫い代（1 cm）と、中心の標を裏側（和紙側）へ付ける。

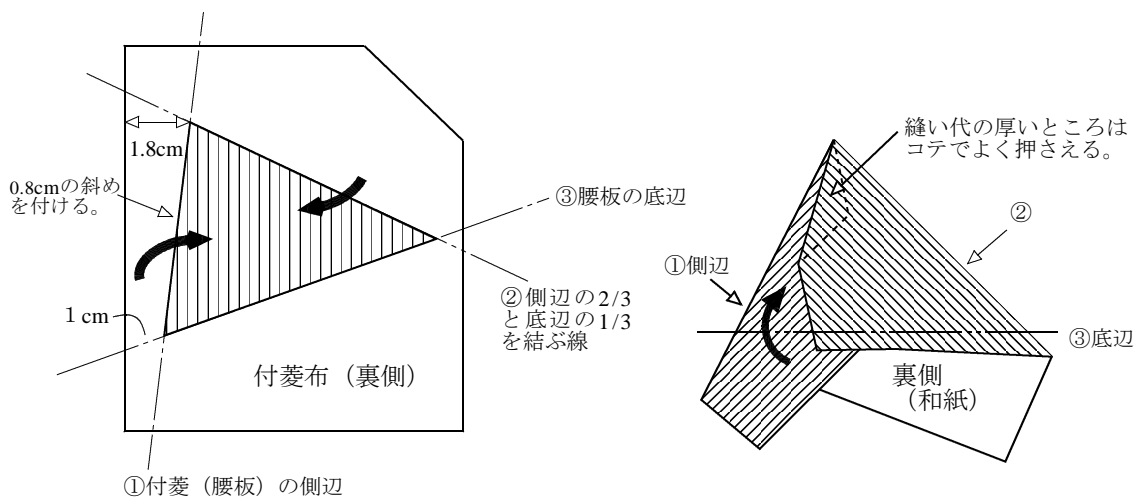
## 6. 付菱

○付菱の寸法

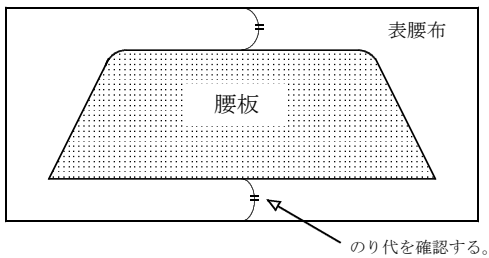


○付菱の折り方

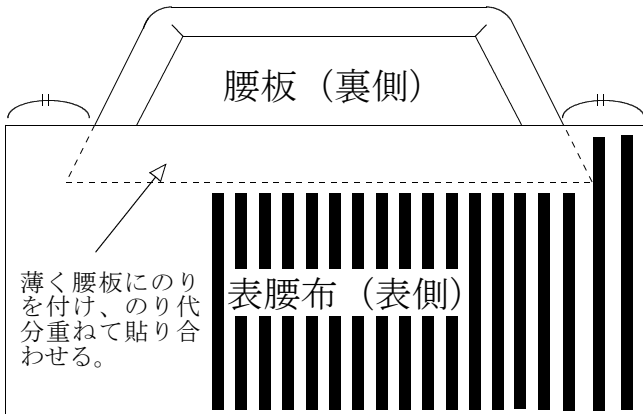
①、②、③の順に折りを付け、出来上がりより出ている部分は、内側へ折り、コテでよく押さえておく。



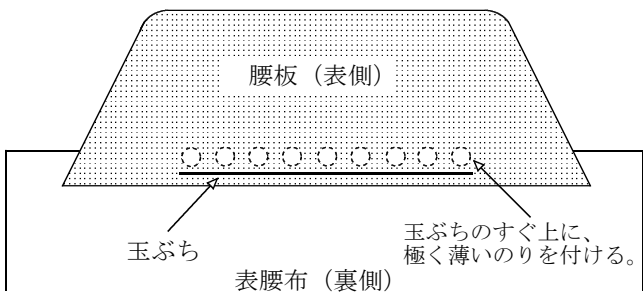
## 7. 表腰布付け



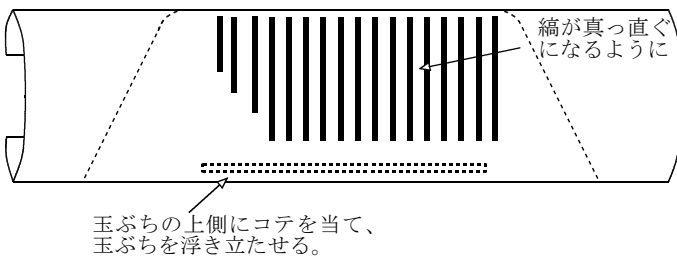
①あらかじめ、表腰布の上に腰板を載せ、のり代を確認しておく。



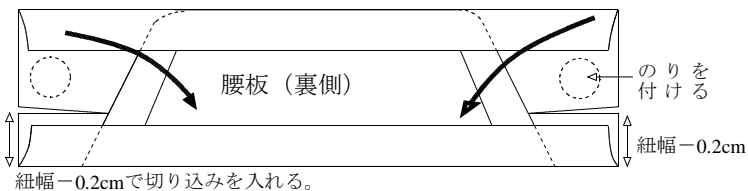
②腰板の底辺裏側へのり代分の深さで極く薄くのりを付け、左図のように表腰布を貼り合わせる。



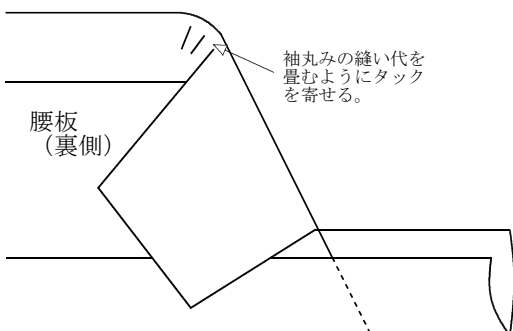
③腰板と表腰布を表側に返し、腰板に付いている玉ぶちのすぐ上に、極く薄いのりを付け表腰布へ折り返す。



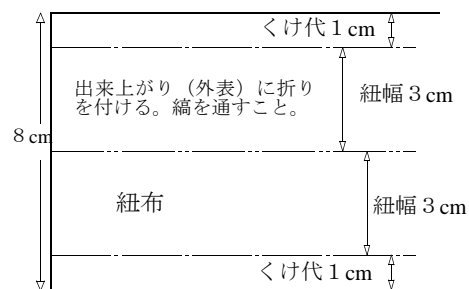
④腰板の底辺に対し、表腰布の縞が直角になるように、位置を決め、腰板裏側へのりを付け表腰布を貼る。玉ぶちの上側（のりを付けたところ）にコテを当て、玉ぶちを浮き立たせる。



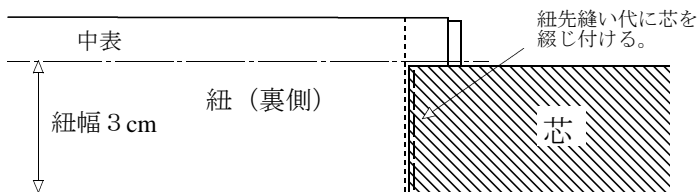
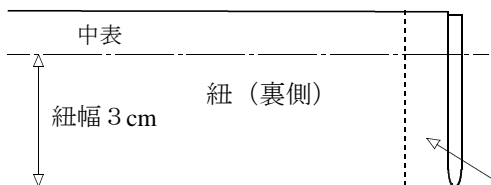
⑤左図のように、腰板底辺の表腰布の輪より、紐幅-0.2cm (2.8cm) の幅で腰板の際まで切り込みを入れ、下図のように腰板の角の丸みに添って表腰布にタックを寄せ畳み、のりを付けて貼り、タックの部分をよく押さえる。



## 8. 紐作り 出来上がり幅：3cm 丈：13cm以上

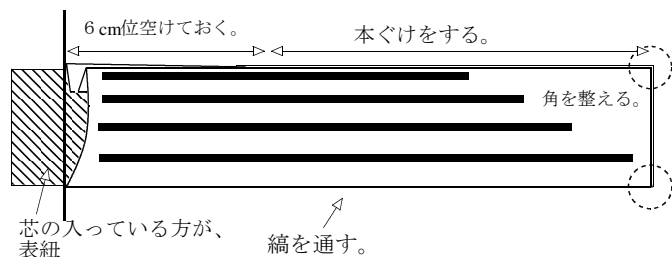


①左図のように、縞を通し出来上がり幅に折る。左右の紐の縞が同じとなるように注意すること。紐芯を紐幅-0.2cm (2.8cm) に裁断する。

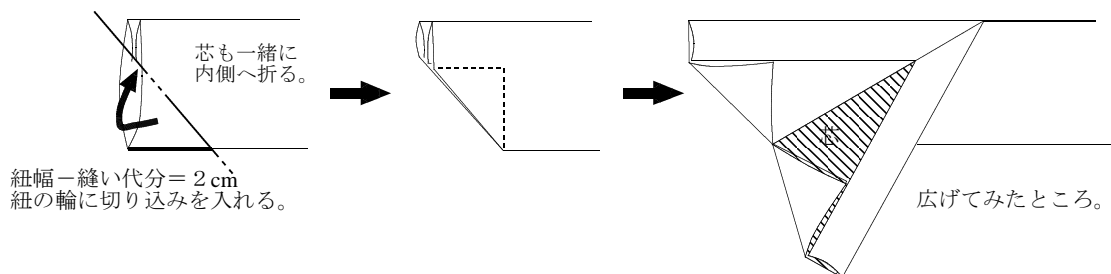


②中表にし、紐先を1cm縫い代で縫い、芯を綴じる。  
 ◎左右の紐が出来るように芯の入れ方を左右対称にすること。

芯は、紐布に合わせて  
 裁ち落とす。

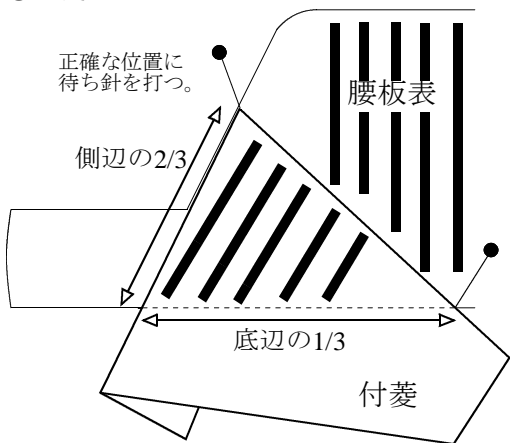


③表に返し、紐裁ち切りから6cmくらい手前まで本ぐけをし、紐の仕上げをする。左右の紐が出来ているか確認する。（芯の入っている方が表）芯は紐布の裁ち切りに合わせ裁ち落とす。次に、下図のように紐端の輪に紐幅（3cm）-縫い代分（1cm）=2cmの切り込みを入れ、内側へ折る。

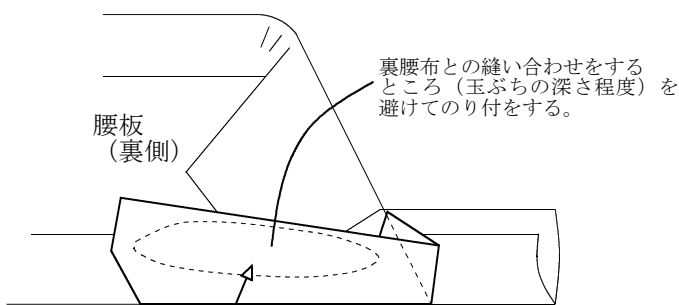


## 9. 縫い合わせ

①付菱付け



付菱と腰板の角、側辺、底辺を合わせ、付菱が左右対称となるように位置を決め、腰板裏側でのり付けをする。

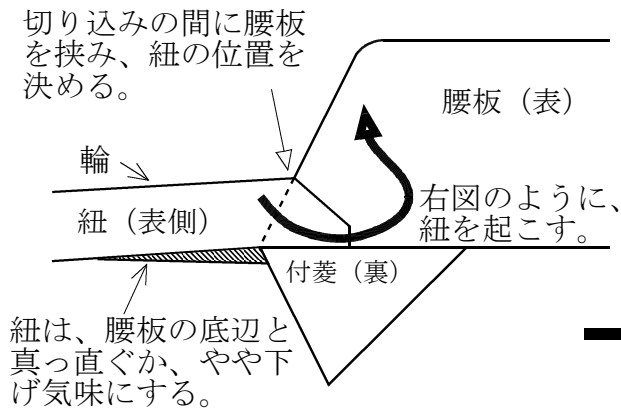


クリップなどで、のりが乾くまで押さえておく。

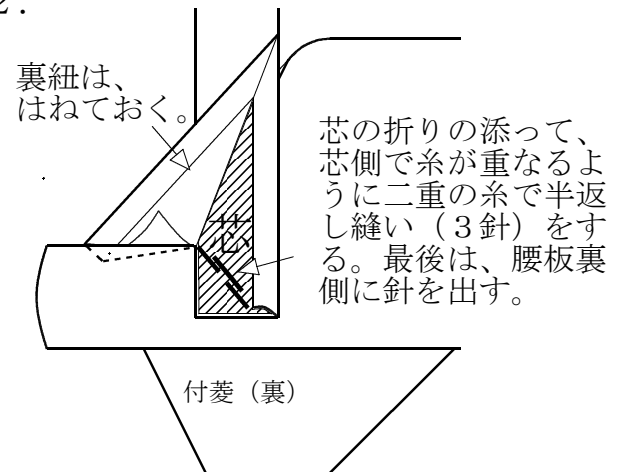
②紐付け

下図のように付菱をはね、腰板に紐付をする。裏紐は、はねて、縫わないでおく。

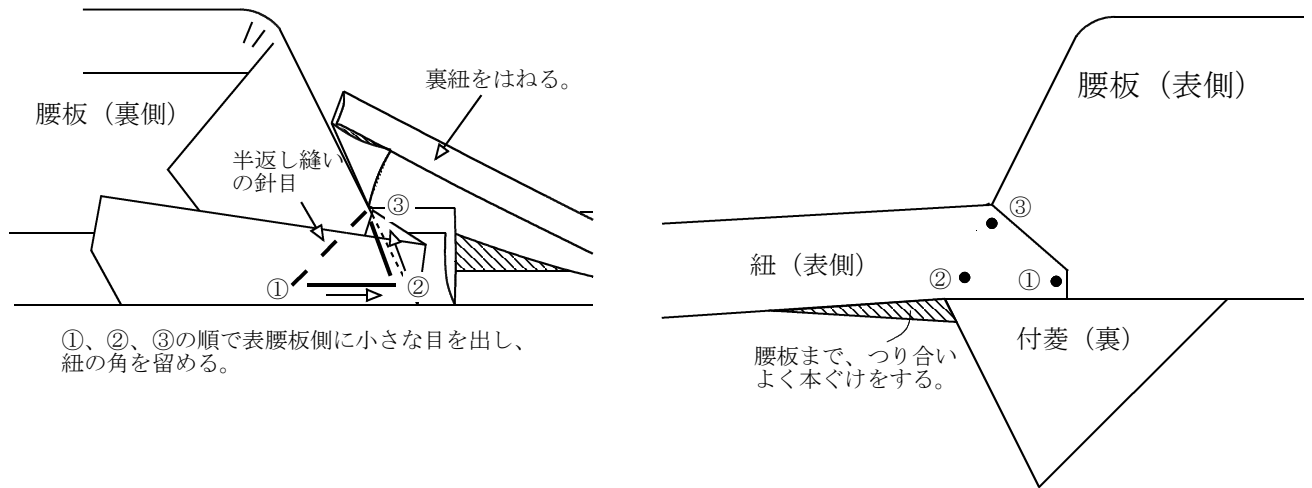
1.



2.

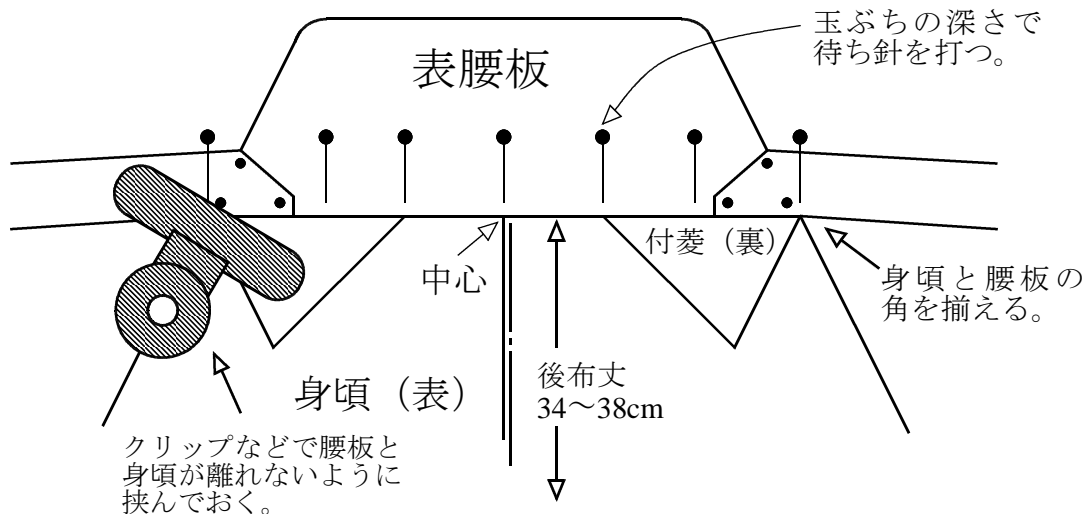


3. 図1のように紐を戻し、裏紐をはね、角に留めをする。

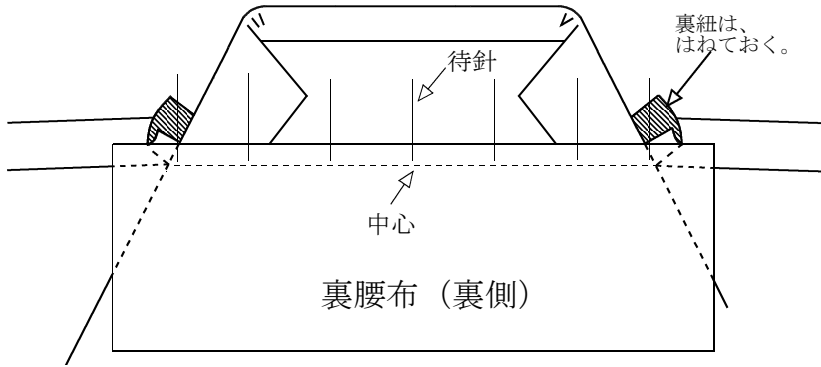


③腰板付け

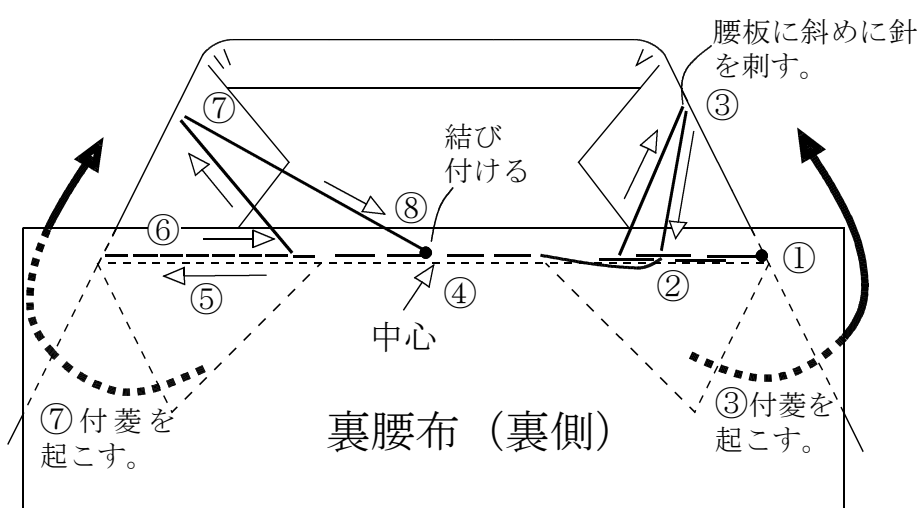
(1) 後布丈位置で腰板を載せ、待ち針を打つ。



(2) 後布、腰板共に裏に返し、裏腰布をのせる。

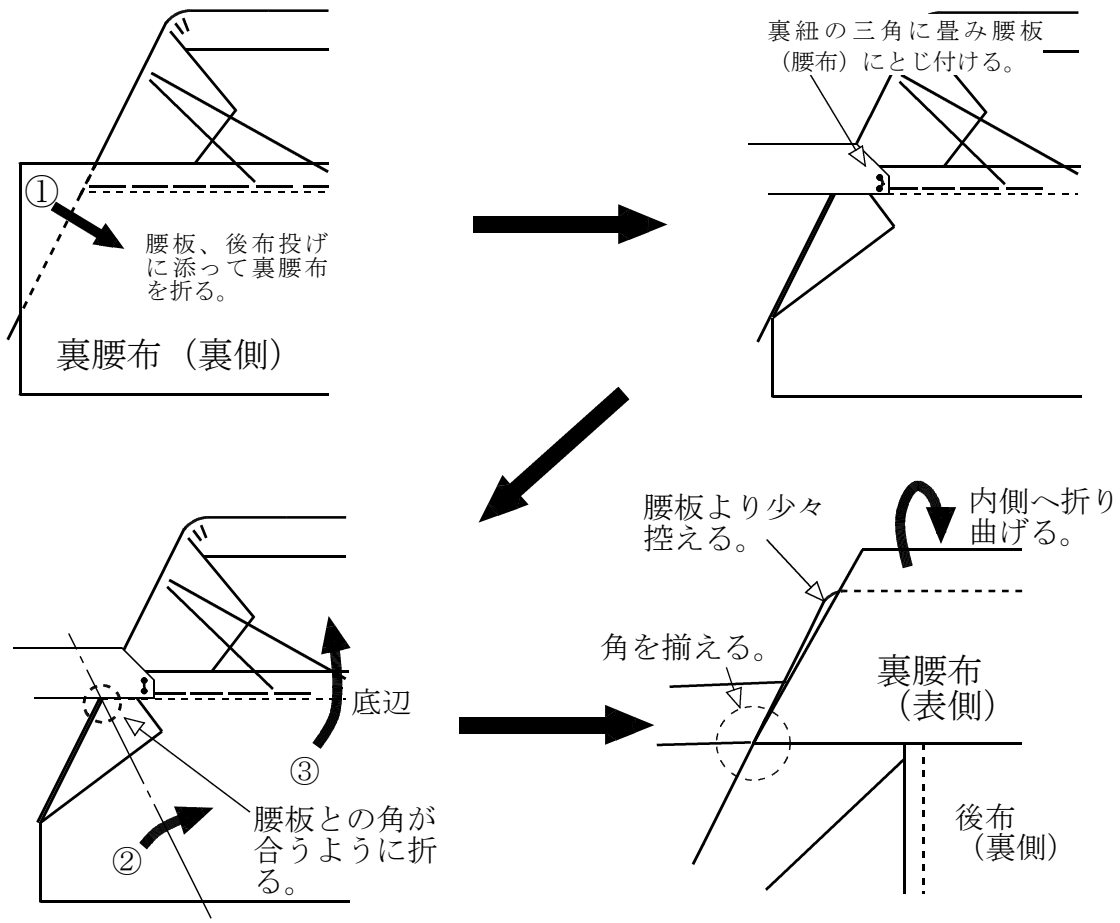


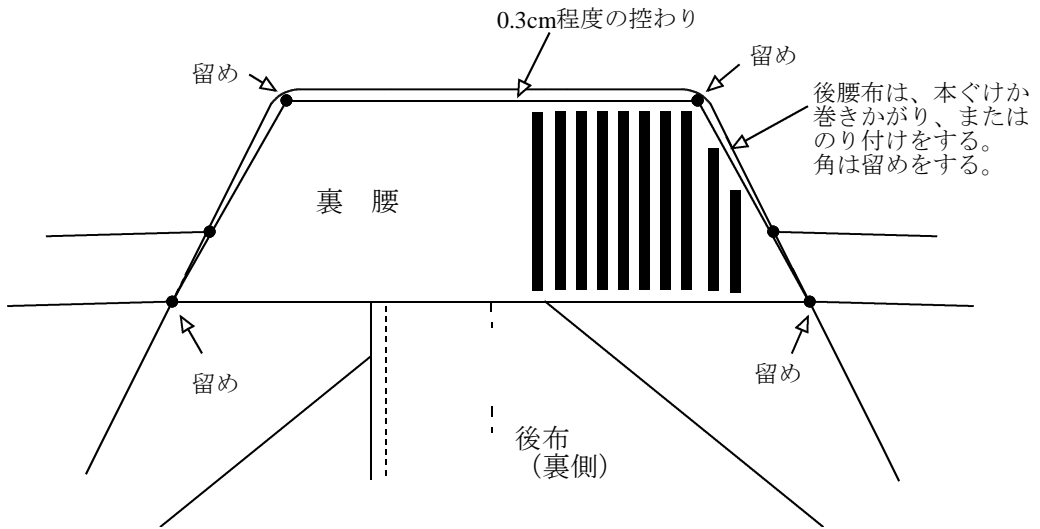
(3) 縫い合わせ



- ①腰板角を抄留めをする。
- ②付菱幅の間は半返し縫いをする。
- ③付菱を起こし、付菱の角をすくく。
- ④表腰板の玉ぶちの上に小さな目を出す。(5つ)
- ⑤腰板角まで縫う。
- ⑥付菱幅の少し手前まで縫い返しをする。
- ⑦付菱を起こし、付菱の角をすくく。
- ⑧腰板中央に渡っている糸に結びつける。

(4) 納め





【注意点】

